

# 学校体育におけるベースボール型ゲームに関する一考察

## A study on the baseball game in school physical education

1K06B017

指導教員 主査 吉永 武史先生

池澤 竹葉

副査 吉村 正先生

### 【序章】

私は大学時代、体育会のソフトボール部で活動してきた。そのなかで、「ティーボール」にも携わってきた。そのようななか、平成 20 年 3 月に告示された小学校学習指導要領ならびに中学校学習指導要領において、「ベースボール型」が採用された。ティーボールはベースボール型ゲームの基本となるスポーツであり、学校体育のなかでその役割には大きな期待がかけられている。私が経験してきたベースボール型ゲームについて本研究ではその有効性を明らかにし、今後のティーボールの可能性を探りたいということが研究の動機である。ベースボール型ゲームが運動能力の大きく向上する小学生の時期に与える影響を明らかにすることを研究の目的とした。

研究の方法については、主にソフトボールなどに関連する文献資料の収集、分析によって行った。

### 【第 1 章】

ティーボールについて紹介した後、ティーボールの歴史、ルール、特徴など、さまざまな視点からティーボールについて検討した。そのなかで、ベースボール型ゲームの一番の醍醐味である「打つ」ということが、ティーボールにおいて誰でも簡単に味わえるということが分かった。また、ティーボールは技術的なこと以外にも生きていくうえで必要なことを学べるスポーツである。まず、コミュニケーション能力の向上が挙げられた。また、集団行動の基本を学ぶ

ことができるということも分かった。

### 【第 2 章】

ベースボール型ゲームが学校教育においてどのような位置づけがなされているのかということ学習指導要領の内容をもとに検討した。また、平成 20 年度告示の学習指導要領ではティーボールが採用された。その理由は、「いつでも、どこでも、だれでも」行えるスポーツであることが挙げられる。このような手軽さと、安全に配慮されている点、運動機会の平等性などがその理由であることが文献の収集により分かった。最後に学校体育におけるティーボールの今後の期待されることについて考察した。その結果、課題解決能力やコミュニケーションスキルが向上するということが明らかになった。

### 【第 3 章】

ティーボールの具体的な指導モデルを示し、発達段階や学習目標に対応した多様な授業展開が行えることを提案する。体育の授業でティーボールを行う上で、最初からオフィシャルルールに基づいたゲームを行うことは非常に難しい。最終的にはオフィシャルルールに基づいたゲームを行えるように、単元過程を工夫した指導モデルが考案されている。その指導モデルで取り上げられている教材について分析し、ティーボールの教材開発の理論について考察した。

最後に海外においても普及が進んでいるティーボールの今後の展望を記した。そのなかで、2012 年までの移行期間中、いかにティーボール

の基礎を固められるかが重要であると考えた。

【結章 研究のまとめと今後の課題】

社会状況の変化に伴う子どもの運動離れが深刻化する問題へ対応していくために、学校体育におけるベースボール型ゲームについて検討し、今後学校体育の教材としてティーボールが採択していくことの有効性が明らかになった。